

令和7年度

第1回 進路説明会

桜咲く深緑の学び舎

世田谷区立深沢中学校

2025/07/02

令和6年度卒業生進路一覧(令和7年3月31日現在)

学校名(私立)

青山学院高等部
あおぞら高等学校
R高等学校
N高等学校
S高等学校
科学技術学園高等学校
東京学芸大学附属高等学校
クラーク記念国際高等学校
神田女学園高等学校
国本女子高等学校
慶応義塾高等学校
慶應義塾女子高等学校
佼成学園高等学校
国学院久我山高等学校
國學院高等学校
国士館高等学校
駒澤大学高等学校
駒場学園高等学校
志成館高等学校
品川学藝高等学校
自由ヶ丘学園高等学校
自由学園高等学校
城北高等学校
成立学園高等学校
仙台育英高等学校
専修大学附属高等学校
玉川聖学院高等部
中央国際高等学校
中央大学杉並高等学校
中央大学附属横浜高等学校
桐蔭学園高等学校
東海大学付属相模高等学校
東京音楽大学付属高等学校
東京高等学校
東北高等学校
都市大等々力高等学校
日本学園高等学校
日本大学櫻丘高等学校
日本大学第二高等学校
日本大学鶴ヶ丘高等学校
富士見丘高等学校
豊南高等学校

学校名(私立)

朋優学院高等学校
宮崎日大高等学校
明星学園高等学校
目黒学院高等学校
目白研心高等学校
立教新座高等学校
ルネサンス高等学校
早稲田大学高等学院

学校名(国公立)

都立園芸高等学校
都立大田桜台高等学校
都立蒲田高等学校
都立国際高等学校
都立駒場高等学校
都立小山台高等学校
都立桜町高等学校
都立新宿高等学校
都立世田谷総合高等学校
都立第一商業高等学校
都立第三商業高等学校
都立千歳丘高等学校
都立戸山高等学校
都立豊多摩高等学校
都立西高等学校
都立晴海総合高等学校
都立日比谷高等学校
都立広尾高等学校
都立目黒高等学校
都立芦花高等学校
筑波大付属駒場高等学校
東京学芸大学附属高等学校
東京科学大学附属高等学校
東京藝大付属高等学校

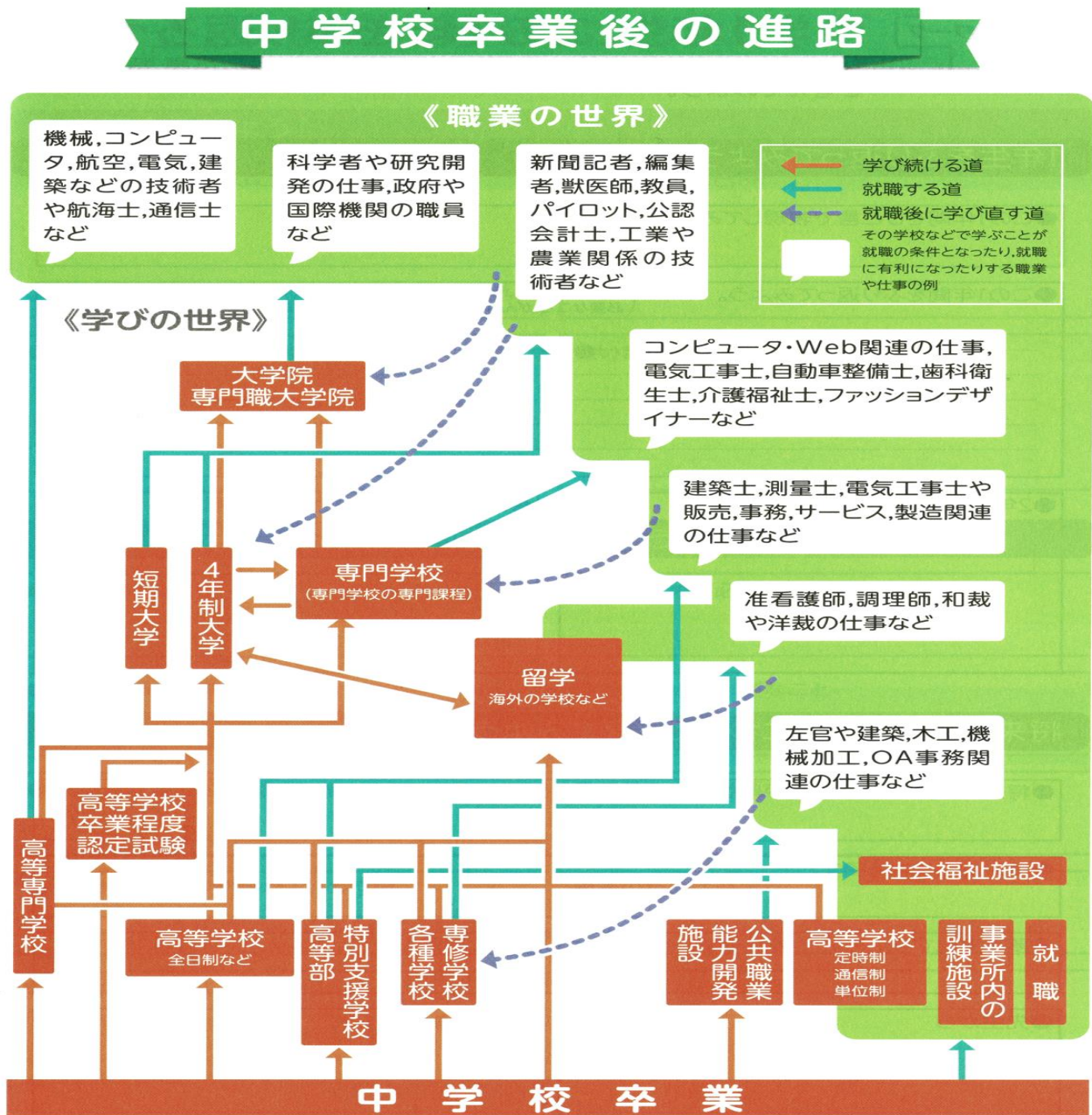
海外

海外高校進学

はじめに:「卒業後の進路選択にあたって」

進路を決定するのは「まだまだ先の話」とは言うものの、実質的には 3 年の2学期には志望校を決定する事を考えれば、それほどの時間はありません。

進路決定までの流れと、大まかな上級学校の種類をまとめてみました。中学校の卒業後、就職、社会へ参画するまでには下図のように様々な上級学校が存在します。自分が将来「どのような職業に就きたいのか」、そのために「どのような事を学ぶべきか」などを考えて選択することが大事です。



(実業之日本社「中学校生活と進路」より)

今後のスケジュールについて

日程	内容
5月26日(月) ～ 5月30日(水)	定期考査①(3年のみ)
6月20日(金)	ESAT-J YEAR 3 受験マニュアル配布
6月25日(水) ～ 6月27日(金)	定期考査②
6月30日(月)	第1回 領域診断テスト
7月3日(木) ～ 9月17日(木) 9:00 ～ 17:00	ESAT-J YEAR 3 受験申し込み期間
7月2日(水)	第1回 進路説明会
7月2日(水)	第1回 進路希望調査 配布
7月11日(金)	第1回 進路希望調査 締め切り
7月22日(火) ～ 7月28日(月)	三者面談①
9月11日(木)	第2回 領域診断テスト
9月30日(火) ～ 10月1日(水)	定期考査③
10月6日(月)	第2回 進路希望調査 配布
10月16日(木)	第2回 進路希望調査 締め切り
10月24日(金)	第3回 領域診断テスト
10月29日(水)	第2回 進路説明会
10月30日(木) ～ 11月7日(金)	三者面談②
11月12日(水) ～ 11月14日(金)	定期考査④
11月19日(水)	校内推薦検討委員会
11月10日(月)	第3回 進路希望調査(最終) 配布
11月20日(木)	第3回 進路希望調査(最終) 締め切り
11月23日(日)	ESAT-J 実施日
11月26日(水)	仮内申通知(9科評定) 予定
12月1日(月) ～ 12月5日(金)	三者面談(最終決定)
12月15日(月)	私立入試相談(私立推薦入試・併願優遇決定)
1月上旬	出願・入試

確認事項

- ・ 進路希望調査をはじめとした各種提出物の提出期限は厳守でお願いいたします。特に 3 回目の希望調査につきましては、その後の三者面談や入試相談に影響が出ますのでよろしくお願いいたします。
- ・ 高校へ提出する調査書(内申)は、1学期と2学期の成績を合計した総合成績を提出します。上記の仮内申は2学期の通知表に記載される予定の評定と同じものになります。
- ・ 私立高校の推薦基準・併願優遇の基準には、遅刻や欠席日数を問われるものもあります。
- ・ 本校での面談は、領域診断テストの結果を用いて実施します。個人的に受験した模試の結果などがありましたら、担任まで提出いただくと幸いです。模試の結果につきましては、コピーをとらせていただき面談資料として活用させていただきます。(原本は即時返却いたします)
- ・ 英検(実用英語技能検定)・漢検(日本漢字能力検定)・数検(実用数学技能検定)などの、各種能力検定につきましては、11月末日までに合格等の成績がわかるものに限り、調査書に記載することが可能です。(私学の入試相談に記載するため)

令和8年度入試について

<深沢中学校進路目標>

- 1 自分自身で考え、選択・決定し、その結果に責任をもとう
- 2 基本的な生活をしっかりさせ、進路を切り開く土台をつくろう
- 3 しっかりとした学力を身に付けよう
- 4 同じ苦難に立ち向かう仲間同士、互いに励まし合いながら、進路を実現していこう

都立高校について

都立高校の種類

都立高校は、教育課程、学年制・単位制、学科・コース等、様々なタイプの学校があります。通える範囲であれば、どの学校でも受検が可能です。

教育課程による区分け

全日制課程	日中に授業があります。
定時制課程	夜間など、定められた時間帯に授業があります。(夜間、1・2・3部と分かれている)
通信制課程	自宅で学習を進め、定められた日に登校する。(月に1・2回)

学年制と単位制

学年制	学年ごとに学習する教科や科目が定められ、学習成果が認められると次の学年へ進級できる
単位制	学年の区分がなく、必修科目以外に、自分の興味・関心のある科目を選択し、3年間(学校により4年間)の中で5教科を中心に必要な単位数を習得すれば卒業することができる。

普通科以外の学科やコース

コース制	普通科に属します。様々な教科を平均的に学習しますが、特定の教科を多く学習します(例:外国語コースならば英語など)
総合学科	普通科や専門学科などの枠にとらわれず、幅広く学習できる学科です。興味・関心に応じて自分だけの時間割を作成することができます。

【※その他の学科】

国際学科 商業科 工業科 農業科 家庭科 芸術科 情報科 体育科 福祉科 科学技術科 産業科
デュアルシステム科 ビジネスコミュニケーション科 など

その他にも次のような学校もあります。

◇ チャレンジスクール

勉強が苦手な人、中学校を休みがちだった人、高校中退者などを対象とし、午前・午後・夜間の三部生(定時制)の単位制・総合学科の高校です。通常は4年間で卒業をしますが、計画的に単位を習得するなどすれば3年間で卒業も可能です。

◇ エンカレッジスクール

本来持っている自分の力を十分に発揮できずにいる生徒に、学習する意欲をわかせて、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身につけさせるための高校です。

◇ 高等専門学校

5年間で工業に関する専門的な知識を身に付けます。卒業後は大学 3・4 年次に相当する2年間の専攻科への進学や、大学への編入学も可能です。

さらに「特定の進学目標や教育方針を持ち、大学進学に向けた指導を強化している学校」に**進学指導重点校・進学指導特別推進校・進学指導推進校**などがあります。

入試について

都立高校入試について

- 推薦入試(推薦に基づく入試)と一般入試(第1次募集)があります。
- 第1次募集後、募集人員に達しない高校では、第2次募集を行います。(決して多くない!)
- 前期・後期といった2回にわたった分割募集を行う高校もあります。
- これら高校の選抜方法をまとめた資料は、2学期になってから公表されます。

令和8年度入試の日程

入試形態	出願受付期間	実施日	合格発表
推薦入試	1/9(金)~16(金)	1/26・27(月・火)	2/2(月)
一般入試 (第1次・分割前期)	1/30(金)~2/5(木)	2/21(土)	3/2(月)
一般入試 (分割後期)	3/5(木)	3/1(火)	3/14(金)

【参考】

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らし、基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようになる。

(東京都教育委員会 HP より)

応募資格

都立高校全日制的応募資格は、入学後も都内に住所を有し、保護者と同居し、そこから通学することが条件となります。他県在住者が都立高校に出願することはできません。中学卒業後に都外へ転居することが決まっている場合は全日制的都立高校に応募することはできません。

< 必要書類についての説明 >

1 「調査書」

記載される内容は以下のとおりです。

- ・ 必修教科の観点別学習状況の評価(A・B・C)と評定(1~5)
- ・ 「総合的な学習の時間」の内容及び評価
- ・ 諸活動の記録
- ・ 出欠の記録
- ・ 「ESAT-J YEAR3」の結果

※ 各教科の評価・評定は、中学校第3学年 12 月末現在の成績とされています。(評価・評定にあたっては、第3学年の第1学期及び第2学期の成績を十分参考とすることになっています。)

※ 「ESAT-J YEAR 3 の結果」の記載については、「英語の学力検査を実施しない学校」「リスニングテストを実施しない学校」は対象外になります

※ 調査書の内容については「調査書記載事項通知書」として保護者の方々には通知いたします。

2 「自己PRカード」

- ・ 記入内容は「志望理由について」「中学校生活の中で得たこと」「高等学校卒業後の進路」の3項目で、各高校が示す「本校の期待する生徒の姿」を参考にして、志願者自身が記入します。
- ・ 点数化されることはありませんが、面接をおこなう場合の面接資料や入試の合格判定資料の一部として使われたり、学校生活に対する意欲などを確認したりする資料になります。
- ・ 面接を実施する学校を志望する生徒は、出願時に志望する学校へ提出します。面接を実施しない学校を志望する生徒は、入学手続き後、入学予定の学校へ提出します。また、2次募集で受検する際にも必要になります。

都立高校 推薦入試について

実施校・募集人数	<ul style="list-style-type: none">・ ほぼ全ての都立高校で実施・ 募集人数は各校で定める・ 一部の高校では,文化・スポーツ等特別推薦を実施。
推薦基準	推薦を希望する場合は,本人・保護者の申請に基づいて,中学校内で組織する推薦委員会で協議し,最終的に学校長が推薦するにふさわしいと認めた生徒が出願可能。
選考の資料	<ul style="list-style-type: none">・ 調査書・ 小論文または作文,実技検査,その他各高校が設定する検査の中からいずれか一つ以上。・ 個人面接と集団討論 <p>以上の3項目が点数化され,総合成績で合否判定が行われます。</p>

選考の資料について

◇ 調査書点

- ・ 9教科の観点別学習状況の評価(A・B・C)を点数化する高校と,評定(1~5)を点数化する高校がありますが,9割の学校では評定を用いています。
- ・ 満点の点数は各高校が定めます。調査書点の割合は50%を上限としています。

◇ 小論文または作文,実技検査,その他各高校が設定する検査

- ・ 満点の点数は各高校が定めています。

◇ 個人面接点

- ・ 原則として,全ての高校で実施します。満点の点数は各高校が定めています。

その他

- ・ 推薦入試の合格者は,入学確約書を高校に提出し,私立高校も含め,他の高校を受験することは一切できません。
- ・ 推薦入試で不合格になった場合は,一般入試で同じ高校に出願することができます。また,他の高校に出願することも可能です。

都立高校 一般入試(学力に基づく入試)について

選考の資料

以下の資料①～④が点数化され、合否判定が行われます。

①	学力検査得点 (700点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の検査を実施 ・ 特定の教科の配点に比重をかける(「傾斜配点」という)高校もある ・ 自校で問題を作成している高校もある <p>※ エンカレッジスクール, チャレンジスクールでは, 学力検査を実施していません。 調査書, 志願申告書, 面接などで選考する。</p>
②	調査書点 (300点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書の各教科の評価・評定は, 中学校第3学年 12月末現在の成績とし, 9教科の評定を調査書点(内申点:65点満点)として換算する。 <p style="text-align: right;">(これを「換算内申」と呼ぶ。)</p>
③	ESAT-J (20点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J YEAR 3)」と言い, 中学校の授業で学んだ英語で「どれくらい話せるようになったか」を測るテスト。 <p style="text-align: right;">(今年度は11月23日(日)に実施)</p> <p>※ エンカレッジスクール, チャレンジスクール, 英語学力検査を実施しない学校及び, リスニングテストを実施しない定時制課程校は対象外</p>
④	面接点 小論文点 作文点 実技検査点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接, 小論文, 作文, 実技検査を実施する高校は, 各都立高校が適正に基準を定めて点数化する。

上表の①～③(※場合により④)を合算した結果を「総合得点」と呼び、この数値をもとに合否判定が行われます。

私立高校について

私立高校は、教育課程、学科・コース、男子校・女子校・共学校などの違いで様々なタイプの学校があります。建学の精神に基づき、それぞれ特色のある個性的な教育を行っています。

私立高校 入試について

私立高校の入試には、学校によって様々なタイプ、様々な名称が使われていますが、入試日程から大きく2つのタイプに分類されます。名称や内容については学校ごとに異なりますので、学校ごとの説明会や募集要項などで、必ずご確認ください。

入試日程

入試形態	出願受付期間	実施日	合格発表
推薦入試	1月中旬～	1月中～下旬	実施日の翌日
一般入試	1月下旬～	2月上～中旬	実施日の翌日

(あくまでも一般的な例です)

私立高校 推薦入試について

推薦の基準

- 推薦入試合格者は必ず入学することが受験の条件です。
- 推薦を希望する場合は、本人・保護者の申請に基づいて、校内で組織する推薦委員会で協議し、最終的に学校長が推薦するにふさわしいと認めた生徒が出願できます。
- また、私立高校側が定める推薦基準を満たしていない場合は、推薦受験はできません。

私立高校が定める推薦基準(例)

- ・ 生活指導上の問題がなく、学校長による人物の推薦がある者
 - ・ 進学する目的意識が明確であり、その理由が適切である者
 - ・ 各教科の評定の値が基準を満たしている者
 - ・ 遅刻・欠席・早退の回数が一定数未満である者
 - ・ 特別活動の実績がある者
 - ・ 検定などの資格の有無
- など

選考の資料について

学力試験は実施せず、入学願書、中学校からの推薦書、調査書、面接、作文などに基づき、合否判定を行う高校が多くあります。

入試相談について

推薦入試を受けたい場合は、中学校と高校による事前の「入試相談」が必要となります。例年 12 月中旬以降に中学校の教員が高校まで出向き相談を行います。

私立高校 併願優遇制度について

- ・ 併願優遇制度とは、他校を第一志望校としていて、その第一志望校が不合格だった場合に「必ず入学すること」を条件に、入試得点などを優遇する制度になります。
- ・ この場合の第一志望校は公立高校を指すことが多いものの、私立高校を認める高校もあります。
- ・ 併願優遇を実施する高校が定める基準を満たしていることが、この制度を利用できる条件になります。この条件は先の推薦入試よりも基準が高く(厳しく)設定されていることが多いです。
- ・ 全ての私立高校が実施しているわけではないため、必ず確認をしてください。

私立高校 一般入試について

選考の基準

学力試験、入学願書、調査書、面接などに基づき、合否判定を行う高校が多いです。入試相談は不要です。

その他の学校について

◇ 国立高校・高等専門学校・専修学校・高等技術専門学校の入試

学校により、入試制度が大きく異なります。希望するご家庭は、担任への相談はもちろん、資料・情報の収集を行なってください。

◇ 就職について

就職を希望する場合は、基本的に求人をまとめる公共職業安定所（ハローワーク）を通じて相談を進めます。その場合、就職統一選考が 1 月ごろに行われます。知人等の紹介による就職、家事従事という場合もありますが、基本的には諸機関との連携によって進めていきます。

資料:「深沢中学校の推薦基準について」

1. 推薦基準

志望校の教育理念や求められている生徒像を理解し、強い進学の手志を持っていること

- ・ 意欲を持って授業に参加し、学力の向上に積極的に取り組んでいること
- ・ 中学生としての基本的な生活習慣やマナーを身に付け「生活のきまり」を守った身なりや行動ができ、心身の鍛錬を心がけていること
- ・ 学級活動、生徒会活動、部活動、ボランティア活動など、諸活動に熱心にかつ、継続的に取り組んでいること

2. 以下の事項に該当する者は、推薦入試審査対象にはなれない

- ① 法律違反の対象となる様な行為を行い、指導を受けたにも関わらず、改善の様子が見られない者
- ② 学校生活のルールを守らず、注意に従わず同じ行為を繰り返し、反省が見られない者
- ③ 推薦入学を希望する学校が示す条件・基準に満たない者

3. 推薦入試可否の審査手順

- ① 第一志望の学校であること(合格したら必ずその学校に進学すること)
- ② 推薦希望者は、文化・スポーツ等の特別推薦も含め、当該学校等の示す推薦基準を満たしている場合に、推薦願いを中学校に提出する。
- ③ 第3学年で資料を作成し、推薦検討委員会で審査の後、学校長に提出する。
- ④ 学校長が推薦の可否を最終的に決定する。

※ 志願理由や目的意識が不明確な生徒、問題行動が改善されない生徒については、推薦検討委員との面接を経て、推薦の可否を決定する。

< 本校の推薦検討委員会組織について >

- 学校長・副校長・主幹教諭・学年主任・第3学年担当教員を持って充てる。
- 担任は学級生徒の普段の様子・行動等の助言発言者として、必要に応じて意見を述べる

最後に:「保護者の皆様へのお願い」

(1)ご家庭での生活の留意点

- ① 保護者の皆様には「身近な社会に生きる先輩」として、お子様たちの良き相談相手になってください。
- ② 受験生として特別扱いせず、家族の一員としての役割も、いつも通りにするなど、家族の輪を大切にさせてください。
- ③ 心と身体の両面で安定した健康状態を保つことが大切です。勉強だけに視野を狭めず、適度な運動など、生活全般のリズムを保つように助言してください。
- ④ 不安なことなどは学校にご相談ください。ともにお子様を支えていきましょう。
- ⑤ 学校からご家庭への通知については、今後重要なものがたくさん配布されます。お子様への声掛けをお願いします。

(2)進路選択の留意点

- ① 進路の決定については、お子様と十分にお話をしてください。
- ② 高校受験はあくまでも過程であり、手段に過ぎません。「高校合格」を最終目標とせず、「なぜ、その学校なのか」を考えさせてください。
- ③ 進路希望先についてはよく調べてください。学校説明会や見学会にもぜひ参加してください。

(3)奨学金制度について

入学準備金、授業料の一部などを貸与する制度(奨学金制度)などがございます。応募資格、募集人員、貸与金額など各機関によって異なりますので、制度の利用を希望される際にはご相談ください。

進路の決定にあたっては、お子様と十分に話し合いの時間を持ってください。都立、私立、国立…その他の学校も含めると、その数は膨大であり、それぞれの学校に特徴があります。「どのような進路を選択すべきか」や「どの高校をどのような方法で受験するのか」といった事は、最終的にご家庭で決定していただきます。進路選択は個人の個性や特性を踏まえ、将来の希望をよく考えた上で決めることが大切です。ご家庭内で十分に話し合い・検討して頂いた進路希望に基づき、学校では過去のデータや高校からの情報などをもとに分析し、進路指導を行なっていきます。最も大切なことは「自分で考え、最終的に自分で決める」ということです。これまでも十分にご家庭内で話し合いをされてきたこととは思いますが、進学したのちの生活なども見通して、より具体的な話し合いを行い、最終的な決定に至るようお願いいたします。

